神奈川大学経営学部国際経営学科3年

学籍番号201701889　押切里実

2019年5月9日提出　経営情報論課題　星野リゾートの経営

星野リゾートの考え方が私にどう生かせるか

Q1、星野リゾートとは何か

　星野リゾートは軽井沢や東京、バリなどに旅館やレジャー施設を運営している会社である。今年で創業105年になるそうだ。現在、「星のや」、「堺」、「リゾナーレ」、「OMO」の4つのブランド別に旅館を経営している。開業した当時は、軽井沢の温泉旅館であった。

　近年は、「堺　鬼怒川」や「星野リゾート　トマム」、「星野リゾート　青森屋」など廃れてしまったリゾート地の再生に取り組み、再生させている。

Q2、経営において何を大切にしているのか

　課題記事において星野(2015)は以下の３点を特に主張している。

　１つ目は、様々な経営の問題には経営書を用いるという点だ。経営では過去の事例にさかのぼり、その解決策を現在の問題に応用することが求められるため、昔の本であっても現在の問題に対応できる可能性は十分にあると考えられる。

　2つ目は、経営書に載っている内容をそのまますべて徹底的に実践するという点だ。過去の事例は、経営書に書かれている要因がすべてそろったときに成功してるため、ひとつでも欠けてしまうとうまくいかなくなるのではないだろうか。

　3つ目は、社員だけでなくパートやアルバイトの研修にも経営の名著を用いるという点だ。消費者から見れば、社員とパートとアルバイトは見分けがつかず、どの従業員にも最高のサービスを望むはずだ。そのため、すべての従業員が経営者の考えを知っている必要があるのだろう。具体的な書籍をあげることによって、これから入社したり、研修を受ける人にも経営者の考えを伝えることができる。

Q3、自分自身の行いはどうであったか

　自主的に図書館にある経営書を読み、理念や経営するうえで大切にしていることのエッセンスを取り入れている。従業員が最大級のパフォーマンスができるように、制度や会社を整えていくことが、会社を続けていくうえで大切だということを理解した。また、生物や化学、家政学など経営学以外の分野の本を読むことで広く一般教養をつけようと努力している。

　一方で授業では、知識を覚えていく科目が多く、退屈に感じ真面目に授業に取組まない面があった。発言を多く行う科目は積極的に参加できたと考えている。

Q4、何を活かしていくべきか

　もともと知識を得ることは好きであり、例えば宗教学など、経営学以外の分野が経営学の授業で登場することがあり、広く範囲を持っていることは重要である。学問に境目はなく、どの学問もどこかでつながっていることを意識しながら、広く興味を持って学習をしたい。

　授業中に発言を行うことは、筆者にとってとても面白いことだ。考えながら授業に取り組むことで、授業で得るものも非常に多い。授業には毎回積極的に参加していきたい。

Q5、何を反省していくべきか

せっかく書籍を読み、エッセンスを得ても、利用することがないため、ただの知識で終わってしまう。小さいことでもできるところから着実に、徹底的に行っていきたい。

　また、知識だけを覚えていくだけの科目であっても、社会ではどのように応用されているかを考えながら授業に取り組んでいきたい。

課題記事

星野佳路(2015年12月14日)『経営は「経営の教科書」どおりに徹底的に実践するといい』（ダイヤモンド・オンライン）https://diamond.jp/articles/-/83124（2019年5月7日参照）

星野リゾート『私たちについて』https://www.hoshinoresorts.com/aboutus/（2019年5月7日参照）

テレビ東京「カンブリア宮殿」（2016年12月7日）『リゾート再生の達人のさらなる進化・星野リゾート～日本旅館を世界へ／読んで分かる「カンブリア宮殿」』https://mine.place/page/533117cd-3bef-4e3f-9183-9925cb37e146（2019年5月7日参照）